

令和6年度第2回宮崎県産業教育審議会 議事概要

日時:11月12日(火) 午前10時から正午まで

場所:県庁3号館4階 教育委員会室

委員:8名

尾上 和広(欠席)	笠木 秀樹	栗原 俊朗(欠席)	黒木 さゆみ
是澤 喜幸(欠席)	長門 祥一	柳本 明子	横山 幸子
川北 正文	袈裟丸 未央(欠席)	今城 真美	西國原 総代

概要:

【答申の柱立てについての確認】

- 1 はじめに
- 2 本県産業教育の現状と課題
- 3 VUCAの時代に対応できる力を身につけるための産業教育の在り方
- 4 宮崎県を牽引する職業人を目指した産業教育の在り方
 - (1) 地域産業界と連携した地域社会に貢献する人材の育成
 - (2) 創造力や探究的能力、アントレプレナーシップ等の育成
 - (3) 産業DXの利活用、デジタルスキルの強化
 - (4) グローバルな視点の育成
- 5 魅力ある学校(学科)のブランディング
 - (1) 産業教育の存続とPR
 - (2) 学校や学科の垣根を超えた協働的な学びの促進
 - (3) 柔軟な教育プログラム、カリキュラム・マネジメントの検討
- 6 おわりに

【審議概要】

1 はじめに 2 本県産業教育の現状と課題 についての意見

委員)産業界の欄に「デジタル化の加速」と記載されているが、デジタル化の加速に伴う弊害とその対策にも触れるような記述も入れて頂きたい。金融教育にも繋がる。

委員)アントレプレナーシップについて、以前は商業の科目でも取り扱っていた。現在では、小中学校でも取り扱っているため、今後も必要となる教育であると考えている。

委員)選択肢の1つとして、こういった学びの形態もあると考えてはいかがか。就職して育てる人もいると思う。リスクを含めて明記しておけばよいと感じており、企業の中でも育てていきたい。

委員)文字に起こすと、全員にアントレプレナーシップを求めているように感じるが、そうではなく、選択肢の1つとして考えるのであれば良いと思う。

委員)デジタルコミュニケーションも大事ではあるが、対面でのコミュニケーション力(優先順位を考えて言葉にして伝える力)も重要であると考えている。また、社会人になると、必要な情報を取捨選択し意思決定する場面が多い。「選択する力」はアントレプレナーシップであると思っているので、それを高校生のうちから学ぶことができることはメリットであると考えている。

委員)「デジタルコミュニケーションの強化」ではなく、「コミュニケーションの強化」として、広い意味でコミュニケーションを取り上げてはいかがか。

委員)教育界を取り巻く環境の部分で、「人生100年時代 学び続ける」ことを大切にしていかなければならないと思っている。ウェルビーイングの実現の中に、「学び続ける」「学ぶことの大切さ」が入ると良いと思った。

委員)「学び続ける」という観点は、学習指導要領の中にも、「生涯教育」の観点として出てきておりますので、付け加えていただいたらと思うがいかがだろうか。

3 VUCAの時代に対応できる力を身につけるための産業教育の在り方 についての意見

委員)「デジタルスキルの高い人材」の部分に、AIを追記して頂きたい。これからは、AIをいかに活用して仕事を効率化し、人材不足を解消するかが鍵となってくる。これからの時代を生き抜くには、AIを操れる人材を育てることが重要だと考えているため、できるだけ早い時期にAIを取り入れた学びを導入して欲しい。

委員)学生時代に様々な経験をしてもらうことが大事だと思っている。県内には面白い技術をもった企業がたくさんあるので、実際の社会を見てもらうという観点からも、インターンシップ等を通じて見て学び、体験して学んで欲しいと思う。(インターンシップで就職を決める生徒もいると伺っている)一方で、インターンシップはカリキュラム的にも時間が取れないという話も現場から聞いているため、解決する手立ても検討していかなければならない。また、知事は「世界を見て欲しい」と言っている。現在、教育委員会でも留学の事業に取り組まれているが、「世界を見る」という観点も視野に入れて頂きたいと思う。

委員)上から4つ目※①までが備わった学生が入社してくれると、4つ目以下の力は会社で教育できると考えている。

※①

- コミュニケーション力の高い人材
- 情報収集力や提案力の高い人材
- 専門知識と合わせて「考える力」「向上心」「適応力」「柔軟性」「忍耐力」のある人材
- 創造力のある人材

委員)「創造力」に関しては、学習指導要領の中でも中心的に取り扱われている。新しい学びの中では、こういったことが小学校からの段階で中心的に行われているという理解で良いと思っている。

4 宮崎県を牽引する職業人を目指した産業教育の在り方 についての意見

委員)視点1に関して、当事者意識を持つということは、地域の課題だけではなく、様々な場面で求められることだと思っており、突き詰めていくと、コミュニケーション能力にも繋がるのではないかと考えている。地域の課題に限定した場合、例えば、課題を把握するためには、地域、産業界、行政との対話が必要となる。対話を繰り返すことで、最終的にはコミュニケーション能力の向上に結びつくと考えます。

視点2に関して、各学校において様々な取り組みは十分になされていると思っている。しかし、専門高校は別として、総合制専門高校のような学校においては、垣根を越えた学科同士の連携こそが、産業教育の魅力に繋がると考えている。例えば農業と商業の横断的な学びを行い、それをお互いの専門分野で成果を発表できるような場面があることが魅力向上に繋がると感じている。

委員)当事者意識を持つという観点から、現在、ある高校の探究学習の中で、地域の課題を考えたり、商品開発、パッケージデザイン等に取り組んでいるが、1年で授業が終わることに課題を感じている。3年間で取り組む内容に、または、部活のように先輩方の取り組みを引き継いで継続できるような体制がとれると、当事者意識も育つのではないかと考える。継続して行うことが、地域から応援される学校となり、地域からの応援こそが「学校のブランディング」に繋がると思っている。

委員)職業に関する学科は、どの学科もクラブを持っている。(農業クラブや家庭クラブ等) 今後は、各学校でクラブの育成を検討していく必要もあるのではないかと感じている。

委員)継続して学ぶ観点から、ある高校の生徒が研究を引き継ぎながら、14年目にサバ缶を宇宙に運んだ話を思い出した。このように、課題を引き継ぎ、そして後輩へ繋ぐ学びは、卒業後の学校の応援にも繋がる。視点1に関して、ある学科の総合的な探究の時間で、企業の方が来校し、実際の課題を共有しながら改善策を生徒が考える取り組みを行っていた。こういった取り組みが(1)(2)※②に関係してくる。

※②

(1) 地域産業界と連携した地域社会に貢献する人材の育成

(2) 創造力や探究的能力、アントレプレナーシップ等の育成

視点2については、各学校で行っている素晴らしい取り組みを、産業の学科で共有することが考えられる。例えば、同じ講師の話聞いても、学科ごとに視点を変えれば違う学びが可能となる。学科の特性に合わせて利活用することで持続可能な学びが展開できるのではないかと。

委員)継続する学びに関して、学校によっては商店街活性化の取り組みや、ネットショップを作ったりなど地域に根ざした活動を行っているが、単発で終わることが多い。学校として継続した取り組みが行えるのであれば、持続可能な取り組みとなり、卒業後も関わりがもてるきっかけとなるのではないかと。

委員)商店街の取り組みについては、全国でも事例が多い。特に商業高校では、これまで学校の中で行っていた販売実習を商店街で実施する事例が増えおり、継続した取り組みを行うことで、商店街の活性化に繋がったり、卒業生との繋がりが深まったりすることが考えられる。

販売実習においては、現状のものに加え、農業や家庭、工業などが作ったものを一緒に販売したり、高校生が小学生に販売のノウハウを教えながら販売活動を一緒に行う、キッズビジネスタウンを取り入れることで広がりも生まれる。自治体においては、47都道府県中、約20都道府県の青年会議所が中心となってキッズビジネスタウンに取り組んでいるので、それを広げていく取り組みを行うと面白いものができるのではないかと。

5 魅力ある学校(学科)のブランディング についての意見

委員)ブランディングという側面から、「職業系高校に行くとならば経営が学べる」とすると PR になるのではないかと。「金融リテラシー」を共通科目とし、プロジェクトを設定し、座学や実践を交えながら、年間を通した取り組みを行うことで学を深めることができるのではないかと感じている。また、連携の側面から、今後の少子化を見据え学科が再編されることも鑑み、複数の学校をオンラインで繋ぎ、専門家の講話や専門に長けている教諭の講授業を実施し、各学校で授業を展開する授業の進め方があっても良いと思っている。

委員)食品開発センターや工業技術センターなど県には様々な出先機関がある。産業を学ぶ生徒職員にはぜひ積極的に活用して頂きたい。オンラインでも対応可能であるため、様々な場所を見て頂きたい。また、中学校段階で、将来を見据えて学科を決定するのは難しいかもしれないと考えた時、国の制度もあるかと思うが、入学後に学びの方向性を選択できるような学校があっても良いのではないかと感じている。

委員)以前、普通科の中に、商業・農業・体育のコースを設けるという先駆的な取り組みがあったが、最終的に普通科に全て統合された。仮に融合した学科ができたとしても産業に関する学科が減少する恐れもある。

委員)就職率の資料を見て、大変さを感じている。農業や工業を選んでも専門学校へ行き就職をすることを考えると、普通科を選択し大学を出て就職した方が選択肢も広がるのではないかと感じた。

委員)今回は、普通科とそれ以外という考え方で垣根を越えた学びができる学科を考えてみてはいかがか。または、様々な分野を学びたい人を集めるのも2案目に考えてもよいのではないか。また、ブランディングは非常に重要であると思っている。実施するなら専門家を入れ、思い切り振り切ったイメージやロゴなどを考えた方がよい。本県も「宮崎モデル」を作り、しっかりとしたものを作った方がよい。

委員)仮に「観光」という新しい学科ができた場合、中学生の立場からどういった対応をされるか伺いたい。

委員)例えば、観光科に入学してどのようなことを学び、将来は何になれるのか、という見通しが立てば、面白い学科になると思うし、中学生に対してもそこをしっかりと説明して頂ければ、興味をもつ生徒も出てくるかもしれない。

6 おわりに についての意見

委員)九州では半導体関連産業人材の育成が話題となっている。キーワードの中に、「半導体」という言葉を入れてはいかがか。また、観光科に関して、観光を学ぶことは非常に良いと思うが、学科となると需要があるのかと感じている。